

## ヒイラギモクセイが咲いています。～花の進化を考える

第 14 号の続きのお話です。先週から周辺の民家の庭のヒイラギモクセイが咲いています。その少し前には、校内でも同じモクセイ科のキンモクセイが咲いて、強く甘い香りを放っていました。



### ①キンモクセイ(モクセイ科)

香りが好まれて、庭や公園などによく植えられています。中根小にもありますね。キンモクセイに限りませんが、花の香りは気温がやや低めで湿度の高いとき、つまり曇りの日に強く香るといわれています。中国原産でオスの木とメスの木がありますが、日本にあるのはオスの木ばかりなので、果実はできません。よく似たウスギモクセイは結実し、キンモクセイはこれから育成されたという説もあるようです。

← 2008/10/8 中根小校庭



### ②ヒイラギモクセイ(モクセイ科)

14 号でご紹介したように、ヒイラギとギンモクセイとの雑種と考えられていて、花や葉など両方の特徴が混じっているように思います。キンモクセイと似た香りですが、こちらの方が少し弱めで心地よいという方も多いです。葉脈が太く丈夫で、しかも葉脈標本にすると表の木部と裏の師部とにきれいに分けられるので、葉の維管束の勉強にはもってこいの教材です。



←2007/4/24世田谷区

↑ 2008/10/18 つくば市

そして左の写真が今日の本題。葉はヒイラギモクセイと分かるでしょう。茎の先端に白い大きな花？がついています。秋に咲くふつうの花よりはるかに大きいですが、独特の香りも放っていました。白い部分と緑の部分が入り混じった花びら？(葉?)もあります。これは葉が突然変異を起こして花卉や雄しべに変化したものようです。

左の図のように、葉が進化してガクや花卉、雄しべ、雌しべとなり、それらをつける茎が詰まって花ができたと考えられており、このおかしな花？は、本来葉を作るはずの遺伝子の組み合わせが、突然変異で花をつくる組み合わせに変わって生まれたものと思われます。 [理科支援員 宮内]

